

極秘

二、兵役関係事項

支那事変以来ノ新情勢ニ即シ朝鮮ニ於テハ昭和十三年、台湾ニ於テハ昭和十七年以來陸軍特別志願兵制度實施セラレ、更ニ昭和十八年度ヨリ内地共海軍特別志願兵制度實施セララルニ至レルガ、コレが實施ノ成績並ニ大東亞戰下ノ時局ニ鑑ミ多年ノ懸案タル徵兵制度ハ内地共ニ實施セララル事ニ決定シ朝鮮ハ亦十九年度ヨリ台湾ハ明二十年度ヨリ支々徵集ヲ行フ事トナリ目下コレが準備ニ萬全ヲ期シツツアリ  
概況左ノ如シ

(一) 陸軍特別志願兵制度

の朝鮮

昭和十三年二月 勅令第九五號陸軍特別志願兵令ノ制定ニ依リ同年四月ヨリ朝鮮人ニ對シ志願兵制度實施セラレタルガ志願者數ハ年々増加シツツアリ 今陸軍兵志願者訓練所年度別志願者數及入所者數ヲ示セバ左ノ如シ

年 度	志願者數	入所者數
昭和十三年度	二、九四六	四、〇六八
昭和十四年度	一、一、三四八	一、六一三
昭和十五年度	八、四、四四三	二、〇、六六〇
昭和十六年度	一、四、四、七四三	三、二、〇〇八
昭和十七年度	二、五、四、二七三	四、〇、七七二
昭和十八年度	三、〇、三、三九四	六、三、〇〇〇

志願訓練所ハ朝鮮親善會 施設ニシテ三箇所ヲ置キ、訓練期間ハ概テ

六月トシ年二期ニ分テ入所セシメ軍隊式教育ニ依リ精神及身体ノ鍛錬ヲモトメテ所定ノ訓練ヲ施シ以テ帝國ノ干威ヲ示スル素質ノ養成ニ力ヲ致シソツアリ

是等志願兵ノ入管後ノ状況ヲ見ルニ其ノ成績概テ良好ニシテ一般内地兵ニ位シテ免ノ軍務ニ精勵シ昭和十四年初夏北支ニ出征セル志願兵ハ戦死者ニ名戰傷者十數名ヲ出セリ

本訓練所ハ昭和十八年八月一日徹兵制行ニ依リ本年三月末日廃止セラレ之ガ施設ハ四月一日ヨリ後述總督府ノ施設ヲ以テ軍務予備訓練所トシテ使用セラレソツアリ

(四) 台湾

台湾ニ於ケル陸軍特科志願兵制度ハ昭和十七年四月ヨリ実施セラレハ

台北ニ陸軍兵志願者訓練所ヲ設置シ同年六月開所セリ

昭和十七年度ニ於テハ入所者數一、〇〇〇名ニ對シ四二五、九六一名

ノ志願者ヲ見此ノ内ヨリ前期生五百八名後期生五百七名計千一十二名ハ

中高砂族青年四十名ヲ合ハシテ採用シ同年七月ヨリ之ガ訓練ヲ開始セリ

昭和十八、九年度ノ志願者數及入所者數ハ左ノ如シ

年 度	志願者數	入所者數
昭和十八年度	六〇一、一四七	一、〇〇八
昭和十九年度	七五九、二七六	二、四九七

予備員ヲ合ハシ

備考 昭和十九年度ニ於テハ陸海軍同時ニ募集セシメ陸海軍志願者合計額トスル本訓練所ニ徴兵制ノ実施ニ伴ヒ近ノ廢止セラレテ予定ナリ

(二) 海軍特別志願兵制度

昭和十八年五月朝鮮及台湾同時ニ海軍特別志願兵制度ヲ創設シ同年七月  
勅令第六〇八號海軍特別志願兵令ヲ制定、同年八月一日ヨリ施行セラレ  
ルヲ以テ朝鮮總督府ハ鎮海ニ、台湾總督府ハ高雄ニ火、海軍兵志願者訓  
練所ヲ新設シ志願者募集ヲ開始セル處募集期間僅々一ヶ月餘、短期間ト  
リシニ予備朝鮮兵令ハ志願者視察ハ九州各一處ニ選シ台湾ニ於テハ其ノ數  
實ニ三十一箇ヶ所ニシテ現ニ未セリ、訓練所ハ史々同年十月二日開始シ  
此等志願者數中ヨリ最速セ、レタル入所者各一千名ハ第一回訓練生トシ  
テ既ニ教育ヲ了シ第二回訓練生ハ各二千名トシ昭和十九年四月一日ヨリ  
入所シ教育ヲ急ムソシテリクルモ軍事上ノ必要ニ依リ海軍ニ於テ直接教  
育ノ施スヲ直當ト認ム本制度ハ昭和十九年七月末日取リ廢止シ他般ハ海

軍ニ引雅カレルル不定ナリ

(三) 徵兵制施行準備概況

朝鮮

朝鮮ニ於テハ昭和十三年以來陸軍志願兵制度ヲ實施シテ志願者依リ  
現況又ハ第一補充兵編入ノ途ヲ拓キタルカ大東亞戰爭勃發以來朝鮮同胞  
ノ先後奉公ノ至誠昂揚ノ實情ニ鑑ミ昭和十七年五月八日朝鮮同胞ニ對シ  
昭和十九年度ヨリ徵兵制ヲ施行スル事トシ之ヲ準備ヲ進ムルコトニ因テ  
又定テ見爾來朝鮮總督府ハ徵兵制施行準備委員會ヲ設置シ内地側關係  
廳上ハ緊密ナル連絡ノ下ニ宣傳、啓蒙、戶籍ノ整備、國語ノ普及及青年  
ノ練兵等ヲ實施シ著々其ノ成果ヲ收メソツアリ  
現在實施中ノ措置左ノ如シ

1) 官公私立<sup>(中等)</sup>中学校以上ノ各學校ニ対シ、現役將校ノ配屬ヲ受ケ  
之ガ内容ノ充實ヲ期ス

2) 國民學校卒業者ニ対シテハ

3) 青年訓練所ニ、ニ。七。七。所ヲ設ケ、現在生徒數約十二萬人ナルガ昭和

十七年度ニ於テハ、更ニ之ガ増設ヲ爲シ、内容ノ整備刷新ヲ圖ル

4) 青年訓練所ニ進マザル者ニ付テハ、昭和十九年一月ヨリ徵兵予備検査

ヲ実施シ、現役徵集ヲ予規セラルル者約ニ。〇。〇。〇。人ニ付シ、青年訓練

所別科ニ於テ、概一ヶ年間三。〇。時ノ標準ヲ以テ、徵兵予備訓練ヲ実施

ス

4) 國民學校未修了者ニ付テハ

5) 昭和十七年十月施行セラルル朝鮮青年特別訓練令ニ基キ、現在ニ、大

九ヶ所ノ青年特別訓練所ニ於テ、國民學校未修了者ノ徵兵適齡者ハ、昭

和十九年度ニ於テハ、約十一萬人ニ付シ、概一ヶ年間六。〇。時以上ノ

訓練ヲ受ケス

6) 右ノ内、徵兵予備検査ニ於テ、現役徵集ヲ予規セラルル者及徵兵検査ニ於

テ、現役徵集ノ者約ニ。五。〇。〇。〇。人(昭和十九年度見込)ニ付シ、青年特

別訓練所修了後、昭和十九年五月ヨリ、遞次軍務予備訓練所ニ收容シ、概不

二ヶ月前、心身ノ鍛鍊其ノ他ノ訓練ヲ施シ、以テ、皇軍ノ要員タルノ資質ヲ

鍊成ス

4) 台湾

台湾ニ於テハ、昭和十七年二月、陸軍特別志願兵令ハ、施行ヲ見受ニ、十八年

八月、海軍特別志願兵制度ハ、実施ヲ見共シ、結果ハ、何レモ、採用予定數ニ、數

告スルニ願状ニ見テ次第ナルカ昭和十八年九月閣議決定ヲ以テ台  
 湾同胞ニ付シ徵兵制ヲ施行昭和二十年度ヨリ徵集スル如ク準備ヲ進ム  
 ル事ニ決定セラレ續イテ十一月一日本島人ニ付シ徵兵制ヲ施行スル日  
 ノ兵役法中改正法律ノ公布ヲ見クリ爾來台灣總督府ニ於テハ之ガ施行  
 ノ爲全ク期スル爲徵兵制度更ニ準備委員會ヲ設ケ本制度ノ綜合的企畫  
 ヲ圖ル上共ニ兵事法規ヲ円滑ナル運営ニ關係法令及戶籍ノ整備ヲ目途  
 トシ兵事事務及戶籍事務担当機構ノ充實ヲ圖リテ外青年養成ノ充  
 實化ヲ期シ之ガ機構及施設ノ充實等ヲ圖リテマ  
 主ナル施設左リ如シ

- (一) 國民學校修了ノ男子青年ヲ対象ト爲ス青年學校ヲ充テ進ス
- (二) 國民學校未修了者ニ対象ト爲ス從前ノ國語講習所ヲ根本的ニ刷

新シク之ヲ國民養成所トシテ整備強化ス

- (四) 昭和十九年五月ヨリ官立青年特別養成所制度ヲ設ケ前年度十二月ヨリ其ノ年度十一月ヨリ迄ノ間ニ於テ前令十九年ニ達スル者約  
 三六〇〇人ヲ十八ヶ所へ昭和二十年年度以降三ヶ所ヲ増設シ三十ヶ所ト  
 スノ青年特別養成所ノ收容レシ三月間島嶼ノ要員タルニ須要ナル資  
 質ノ養成ヲ絶ス

秘

四 勞務事情  
一 朝鮮

支那軍要勃弁以未朝鮮ハ豊富ナル地下資源水力電源等ノ好立地條件ニ  
惠マレ各種重要産業並ニ之ガ附帶産業ノ發展著シク随ツテ之ニ伴フ勞  
務需要モ亦逐年飛躍的增加ヲ見ルニ至レリ即チ朝鮮内ニ於ケル國民動員  
計畫上ノ一般勞務者新規需要數ハ毎年度約三十万人(本年度二十四万  
人)ニ上リ其ノ内減耗補充要員ヲ除クモ毎年度約十五万人乃至約十八万  
人(本年度ハ十六万四千五百人)ノ増加ヲ見ツ、アリ。他面内地樵炭等ニ  
對シテハ國民動員計畫ニ基キ昭和十四年度以降既ニ三十六万人(昨年  
十月迄)ノ數トス尚本年度著シク増加スル見込ナリ)勞務者ヲ供出セ  
ル外軍直營工事要員又ハ現地軍要員トシテ相當多數ヲ供出セル狀況ニ

シテ從未豊富ヲ誇レル朝鮮内勞働事情モ最近著シク變化シ勞務供給ノ調  
整ハ相當困難ナル段階ニ到達シツ、アリ  
斯カル情勢ニ鑑ミ從未軍關係勞務者以外ニハ之ヲ實施セザリシ徵用制  
ヲ全面的ニ實施スル方針ヲ決シ工場ノミナラズ内地ト異リ鑛山ニ對シ  
テモ徵用ヲ實施スルコトトシ本年二月八日ヲ第一回トシ既ニ三回ニ亘  
リ現員徵用ヲ行ヒ其ノ數一八ヶ所十七萬餘ニ達セルガ近ク新規徵用  
ヲモ實施スル方針ナリ。尚右ノ外勤勞報國隊ノ強化学徒並ニ女子勞務  
ノ積極的活用等諸般ノ對策ヲ講ジ以テ朝鮮内外ノ二面的供出ト重要物資  
生産ノ増強トニ遺憾ナカラシムベク施策ノ萬全ヲ期シツ、アリ

参考 昭和十四年度以降勞務者計畫移入数

年次	計畫	実績
十四年	八五〇、〇〇〇人	三八七、〇〇〇人
十五年	八八八、〇〇〇	五四九、四四四
十六年	八一〇、〇〇〇	五〇、三三二
十七年	一三〇、〇〇〇	一二六、〇六〇
十八年	一二五、〇〇〇	八七九、六五五 (十一月末現在)
十九年	一九〇、〇〇〇	

外ニ追加要求一〇〇、〇〇〇人

計畫移入勞務者ノ就業先ハ炭坑及土建業ヲ主トスルモ鉄鋼業其他重要工業ヘノ配置モ増加シツ、アリ。單身渡来期限ニケ年ヲ原則トセラレ

ツ、アルモ最近内地ノ勞務事情ニ鑑ミコレカ期限延長定着ヲ獎勵指導シツ、アリ

(二) 台湾

台湾ニ於ケル勞務事情ハ支那事變ヲ契機トシテ勃興セル島内重要鑛工業関係勞務ノ充足ノ外島内軍作業廳所要勞務南方作戰地域ニ對スル派遣要員等ノ軍特殊勞務ノ供出ニ依リ漸次逼迫ノ情勢ニアリタルガ最近戰局ノ進展ニ伴フ生産増強ノ要請ノ加重ト軍特殊勞務供出ノ尨大化トニ依リ更ニ其度ヲ加ヘツ、アリ  
即チ國民動員計畫上ノ一般勞務者新規需要數ハ減耗補充要員ヲ除キ毎年度數万人(本年度四万三千人)ニ上ルノ外軍関係特殊勞務者供出總數約十五万人(昭和十八年未遂)ナルカ戰局ノ推移ニ伴ヒ島内外ニ於

ケル需要ハ更ニ増加ノ一途ヲ辿ルヲ豫想セラレ、ヲ以テ之ガ對策トシ  
テ國民徵用令ノ積極的發動國民登録ノ範圍ノ擴大勞務調整令ノ強化等  
ノ法制的措置ノ外勞務機構ノ強化学徒女子勞務者及轉廢業者ノ積極的  
活用勞務管理ノ改善等勞務施策ニ万全ヲ期シツ、アリ



五、食糧供給状況  
朝鮮

昭和十九年米穀年度、食糧供給状況ヲ見ルニ先ヅ供給ニ於テハ  
前年昭和十七年ノ大旱魃ニ引続キ昨昭和十八年産米七四萬石、  
影響ニ依リ凶作ニシテ生産高約十八萬石、麦其ノ他ノ雜穀  
約千六百石計、三十四萬七千石ニシテ之ニ前年度持越米ヲ  
加ヘ更ニ諸類米ヲ米代替トシテ加算スルニ總計三十五萬石  
程度ニ過ヤ久シク平年ニ比スレバ米ニ於テ約四百石、麦  
類其ノ他ノ雜穀ニ於テ約二百石ノ減産ナリ  
之ニ對シ鮮内需要ハ前米穀年度ニ比シ業務用加工用酒造用  
等ヲ極力壓縮スルニ三萬五千石程度ヲ必要トシ更ニ軍用

米等ヲ考慮スレバ鮮米ノ内地移出總額ハ約七十萬石程度ニ過ギ  
ザル実情ナリ

然レドモ外米依存ヨリ脱却セル内地ノ食糧事情ハ朝鮮米ニ對ス  
ル單請願ル大ナルアリ數々トモ四百石程度ノ内地移出ヲ期  
待セラレシムルヲ以テ關係当局ノ間ニ於テ協議セル結果滿洲國  
ヨリ雜穀三百五十萬石ヲ朝鮮ニ輸入スルト共ニ朝鮮ニ於ケル本年  
產麦類ノ増産ヲ前提トシテ一應四百萬石ヲ移出目標トスルコ  
トニ決定、目下實施中ニシテ本年六月下旬迄ノ移出高ハ約二  
百七十萬石ニ達セリ、滿洲國雜穀ノ五月迄ノ輸入高ハ約百  
九十萬石ナリ。

台 商

昭和十九年米穀年及ノ食糧需給状況ハ先以て供給ニ於テハ  
 昭和十八年米穀二期作米ノ予想收穫高四百萬石ニ對シ旧地  
 移出ノ増強ヲ確保スル爲メ約五割増ノ四百萬石ヲ基礎下セ  
 ル供出額ヲ定メ更ニ本年米穀二期作米ニ於テ食糧需  
 産ノ目標タル四百三十萬石ノ生産確保ヲ期スルヲ想ノ下ニ計  
 八百五十萬石ノ供給ヲ見込ミ之ニ前年度ヨリノ持越米及米  
 年米二期作ノ早場米ヲ加ヘ更ニ米代替用トシテ麥類及甘  
 藷ノ供給ヲ勘案シ供給総額ヲ約九百五十萬石トセリ  
 一才需算高ハ一般民需ニ付テハ前年ニ比シ加工用酒造  
 用等ノ消費規程ヲ更ニ強化シ之ヲ六百十萬石ト抑ヘ軍用  
 米ノ供出ノ定額及繰越米ノ最低所算量ヲ合シテ七百五十

ト十ニ差引輸出数量ヲ約二百五十萬石ト予定セリ而シテ  
 比ノ内南支及南支向輸出ヲ前年程及トスルハ結局内地移  
 出數量ニ約二百四十萬石ナリ尚本年六月中旬迄ノ移出定  
 額ハ六十二萬石ナリ(台湾米ハ例年米一期作米ヨリ全移出  
 量ノ三分ノ二ヲ移出スルモノニシテ八月乃至十一月ノ移出最盛期  
 ナリ)

六、朝鮮 台湾米ノ内地移出激減ト其ノ原因

支那事變勃發以前ニ於テハ朝鮮米ノ内地移出額ハ毎年八九百万石、台湾米ノ移出額ハ四百万石ヲ超シ兩者合シテ千三百万石ノ移入ハ内地ニ米穀過剩ヲ惹起セシメ米價壓迫ノ原因ト目セラレタリ、然レ最近ニ於テハ朝鮮米ノ移出可能量ハ近年作ニ於テモ五百万石程度、台湾米ハ二百万石程度ニ激減スルニ至レリ、

一、朝鮮ニ於ケル秀及粟、大豆等雜穀ノ生産が近年減少ノ趨向ヲ示シツ、アルコト

二、滿洲雜穀ノ朝鮮輸入量が逐年減少ノ傾向ニアルコト

三、台湾ノ米作が連年ノ災害、肥料不足等ニ依リ不振ヲ經ケツ、アルコト

四、朝鮮 台湾ニ於ケル米ノ一人当消費量が増加セルコト

( 民族ノ向上、都市人口ノ増加、台湾ニ於テ甘藷が食用ヨリ家畜

飼料ニ転移セルコト(飼料輸入激減ノ結果)肉類、魚介等ノ供給減ニ依リ副食物ノ減少等が其ノ原因ト目セラル)

人口一人当米消費量ハ往年朝鮮六斗、台湾八斗(内地ハ一石一斗)程度ナリシガ現在ハ嚴格ナル消費規正ニ拘ラズ朝鮮七斗、台湾九斗ニ達ス、今後生産ノ飛躍的増加ヲ見ガレ限リ往年ノ如ク内地移入ヲ期待スルハ困難ナルベシ

七、食糧増産方策

朝鮮 台湾共今後ニ於ケル食糧増産ノ餘地ハ内地之比ニ遙カニ大ナルヲ思ハシム、蓋シ兩地トモ米穀ノ反当收量ハ内地ヨリ遙カニ低ク朝鮮ニ於テハ一石四斗(内地ハ一石一斗)台湾ニ於テハ第一期作一石五斗第二期作一石ニ斗程度ナリ、斯ク單位当收量ノ低位ニテハ所以ハ栽培方法ノ粗放、施肥量ノ不足、農事知識ノ低位、優良品種普及ノ不徹底(特ニ台湾)並ニ水利灌漑等ノ土地改良施設ノ不完備ニ起因スレドモ農民勤勞精神ノ缺陷モ亦之が有力ナル原因ト認メラル、茲ナリ

從テ増産ノ必要対策トシテハ、政府指導員ノ増置ニ依リ優良品種ノ普及栽培方法ノ改善、白給肥料ノ増施等耕種法ノ改善ニ付指導ノ強化徹底ヲ圖ルト夫ニ簡易水田施設ノ急速造成ヲ爲スコト最モ效果のナルバク更ニ恒久的施設トシテ貯水池ノ新設等水利ノ改良ニ依リ旱魃年ニ於テ植竹不能トナル水田（朝鮮ニ於テハ全水田ノ五割程度）台湾ニ於テハ三割程度ニ達ス）ノ減少ヲ圖リ以テ食糧生産ノ安定性ヲ確保スルコト絕對ニ必要ナリ

尚朝鮮ニ於テハ水田ハ多年ノ努力ニ依リ品種改良、栽培方法ノ改善等相當行ハレセガ効果見ルヤキモノナルニ拘ラズ黍類其ノ他ノ畑作物ノ改良ニ付テハ当局者ノ努力ノ不足ト元來朝鮮人が米作ニハ長ズルニ畑作ヲ不得意トスル性質ヨリ又黍類ハ自家得食糧トシテ換金作物タラザリシ事情等相俟テ内地ニ比シ格段ノ相違アリ其ノ反當收量ハ米ノ夫レニ比シ更ニ劣勢ナリ即チ大麥ハ内地反當收量ニ石ナルニ對シ九斗、小麥ハ一石四斗ニ對シ六斗、大豆ハ七斗七升ニ對シ四斗六

斗ト云フ狀況ナリ

然ルニ朝鮮ニ於テハ内地ト異ナリ米モ雜穀モ食糧トシテノ價值ハ同一ニシテ特ニ近年ニ於ケル食糧不足ノ原因ガ米ノ減産ヨリモ寧ろ黍類雜穀ノ減産ニ在ル点ニ鑑ミルトキハ黍類雜穀ノ増産ハ此際特ニ喫緊ノ要務ト認メラル。朝鮮当局ニ於テモ食糧増産対策中食糧畑作物ノ増産ニ付畑作面積ノ増進、畑地灌漑施設、優良種苗ノ確保普及等ヲ指シ黍類、雜穀及諸類ノ増産ニ努力シツソアリ

六 耕地面積

朝鮮 水田百七十六万町、畑二百七十二万町、合計四百四十九万町ニシテ全面積ノ約二割ヲ占ム

台湾 水田五十四万町、畑三十四万町、合計八十八万町ニシテ全面積ノ約四割ヲ占ム（丁甲歩八九畝七畝八分）

内地ハ水田約三百二十万町、畑約二百九十万町、合計六百一十萬町ニシテ全面積ノ約一割六分ヲ占ム

國土全面積ニ対スル耕地ノ比率ハ台湾 朝鮮 内地ノ順ナルモ朝鮮ノ水  
田中水利安全ナルモノハ十余万町ニ過ギズ丘割ハ灌溉施設不完全ニシテ  
旱魃年ニハ耕作不能トナル 台湾ニ於テモ南部地方ノ水田ニハ灌溉施設  
ナキ所留リ看天田トシテカラス



糖

一九 台湾糖業當面ノ問題

台湾ノ製糖業ハ毎年約千八百万担(一担百斤)ノ生産ヲ奉ケ帝國全領域生産ノ八割五分ヲ占ム(他ノ生産地ハ南洋群島、沖繩、鹿児島及北海道、樺太ノ甜菜糖ニシテ生産額ハ合産糖約二百万担、合産糖約百万担ナリ)之ニ對シ平時ノ需要ハ日本内地約十八万担(昭和十三年)台湾百万担、朝鮮七〇万担、滿洲百万担ニシテ帝國ノ生産ハ略全領域ノ需要ヲ充シ得ル狀況ニアリタリ然ルニ昭和十六年以來船腹ノ減少ニ伴ヒ需要ノ大増ヲ惹キ内地ノ砂糖消費ニ規ニシテ加ヘラレニ至リ且ソ其ノ程度ハ時ト共ニ強化セラレ昭和十八年度(一月乃至十月)ニ於テハ内地及需

配当額ハ七百五十万担即チ前年度ニ比シ約五割ノ削減ナリ更ニ昭和十九年度ノ低配当見込僅クニ三百八十万担ニシテ平時ノ需要ノ三割ニ過ヤズ此ノ影響ニ因リ台湾島内ニ於テシテ糖貨ノ生産額昭和十八年度産糖一約七百五十万担ノ糖貨ヲ残セラレ昭和十九年度ヲ迎ヘ本年度ニ於テモ更ニ糖貨ノ増産ヲ生ズル見込ナリ

他面台湾ノ砂糖ハ作付面積逐年トモ不増ニシテ全耕地ノ約二割ヲ占メ其中水田ニ於ケル蔗作ハ四万五千町歩ニ達セルヲ以テ現下ノ食糧事情ニ鑑ミ此ノ際水田ヨリ甘蔗ヲ全面的ニ撤退セシメ以テ米穀増産ヲ図ルベシトノ議論ヲ生ゼリ今仮リニ全面的ニ水田甘蔗ヲ撤退セシメル場合幾許ノ米穀増産ヲ期待シ得ルカヲ見ルニ

前記面積中地目一水田ナル之灌溉用水ノ關係上ハ之ヲ連年水稲作  
ヲ行ヒ付ザルモノアリ結局轉換可能面積ハ約一才六十町歩ノニシテ  
之ニ依ル米穀増産見込數量ハ毎年約三十三万石程度トナルベシ(之ニ伴  
フ砂糖ノ減収ハ約三百万担ト推定ナル)

然ルニ茲ニ新ニ砂糖ヲ原料トスルブタノール製造ノ問題ヲ生ゼリブタ  
ノールハ航空燃料タルイソオクタンノ原料ニシテ戰爭遂行上欠損不可欠  
ナル資源トシテ陸海軍トシテ内地及台湾ニ之ヲ大規模ナル工場建設ヲ因リ  
其ノ一部ハ既ニ操業ヲ開始シツアリ之等工場ノ原料砂糖ハ勿論  
台湾産ニ依存スルモノニシテ昭和十九年度ニ於ケルブタノール原料砂糖ノ  
需要量ハ數百万担ニ達シ昭和二十年年度ニ於テハ更ニ増大ス  
事情右ノ如クナルニ現下食糧増産ノ急務ナルヲ考慮シ内地及台湾ニ於ケル

ブタノール工場建設ノ進捗状況輸送船腹ノ見込ニ並ニ滞貨ノ現状ニ付  
關係方面ニ於テ慎重考慮ノ結果本年六月ヨリ植付ケル昭和二十  
一十一年期産糖ニ關シテハ十五万担ヲ生産目標トシ水稻作ニ轉換  
可能ナル水田廿段ハ原則トシテ全部廢止セシムルコトニ決定セリ  
(ブタノール製造工場ニ轉換セル製糖工場ノ原料採取區域ニ屬スルモノ  
ハ例外トシテ之ヲ認ム)

林業及木材ノ供給

朝鮮

朝鮮ニ於テ森林野面積ハ約二千六百方町歩ニシテ全面積ノ七割ニ占リ占ノ其ノ蓄積量ハ約八億一千万石ニ達ス林野面積中ニ木地ハ約一千五百方町歩ニシテ林相ノ見ルベキモノハ鴨綠江、巨濟江、西流域及脊梁山脈ニ偏在ニシテ其ノ他ノ四百八十万町歩ハ散在地ニシテ木地ニシテ未ダ荒廢セルモノ多シ

木材ノ生産ニ付テハ事變以來軍需並ニ廠工業用等ノ需要増加ニ對應シ森林ノ伐採ハ漸次増大シ昭和十三年度四十七百万石ナリシ伐採量ハ昭和十七年度ニ於テ八千五百方石(用材三千二百方石、薪炭材三千方石)トナリ之ヲ標準年伐量タル三千八百方石(用材

一千二百方石、薪炭材二千六百万石)ニ比スレバ一千四百方石ノ過伐ノ状態ニ在リ用材ノ需要量ハ事變以來約四割ノ増加ヲ見タリ即チ昭和十三年約二千方石ノ需要量ハ昭和十七年ニ於テハ約二千九百万石ニ及ビ当該年度ノ生産量(二千二百方石)ヲ以テハ之ヲ賚ル得ズ約七百方石(丸太換算約三百方石)ヲ内地ヨリ移入シ需給ハ均衡ヲ得タリ昭和十七年及以降ニ於テハ内地ノ木材率極端ニ輸送上ノ關係ヨリ之ニ依存スルコト困難トナリ鮮内ノ木材供給状況ハ甚ダシク逼迫ノ傾向ニ在リ又極力鮮内木材ノ増産ニ努ムルト夫ニ他面用材配給ノ重定化ヲ因リ以テ需給調整ノ高企ヲ期シソナリ



台湾

台湾ニ於ケル林野面積ハ約二百三十万町歩ニシテ至面積ノ  
約六割五分ヲ占メ其ノ蓄積量ハ七億四千五百万町歩ニシテ  
林野ハ概テ國有林野ニシテ面積ハ約九割 蓄積ハ約  
約九割五分ヲ占ム

台湾ニ於ケル最も有用ナル林木ハ檜 ベニヒ等ノ針葉樹ニシテ  
其ノ分布ハ概テ高山地帯ナレド又阿里山ヲ初メテ夙ニ  
開闢利用セラレ特ニ華変以來艦艇用材 航空機用材トシテ  
多量ニ利用セラレ又蓄積量ハ過半ヲ占ム 潤葉樹モ近時  
隘工用ニ建用等トシテ亦ク利用セラレツアリ 森林収採量ハ

昭和十二年年度四百八十万町歩(用材二百三十万町歩、薪炭材二百五十  
万町歩)ナリシモナカレ昭和十三年年度ニ於テハ六百七十万町歩(用材  
三百七十万町歩、薪炭材三百万町歩)ニ達セリ  
台湾ニ於テハ従来ヨリ檜、ベニヒ、柏等特産材(九十万町歩、三万町歩)  
ノ内地ニ移出シ一級用材、電柱等ヲ内地ヨリ移入シ居リ其ノ數  
量ニ需量ハ概テ六割乃至七割(需量九十万町歩、三百万町歩)ニ對シ  
内地移入百九十万町歩)ニ及ベシニ華変以後ハ軍需生産用等ノ  
需量激増(九十万町歩)ノ反面内地材ノ輸送困難トナルニ由  
島産材ノ増産ヲ極力行ヒ需給ノ均衡ヲ保持シ居ル所ナリ

参考

昭和十七年度内地外地ニ於ケル用材需給状況

(單位丸太千石)

輸出入量	前年時越量	内地		
		朝鮮	台湾	内地、樺太、支那
計	計	一四、八八九	一、八三八	四、九四
移出量	移出量	三、〇八五	二六	六二
輸入量	輸入量	六、三六	一、八七	一
		一、四、八九	一、八七	一
		五、九六六	一、八七	一
		一、四、八九	一、八七	一
		一、四、八九	一、八七	一

翌年時越量		計	
計	計	二六、一〇〇	二、八
移出量	移出量	三、〇八五	二、四八
輸入量	輸入量	六、三六	二、九四
		一、四、八九	二、九四
		五、九六六	二、九四
		一、四、八九	二、九四
		一、四、八九	二、九四

水産業

朝鮮

朝鮮ハ其ノ地勢海況各種魚族ノ回遊ニ適シ其ノ種類、數量共ニ豊富ニシテ昭和十一年ニ於ケル漁獲高ハ一億七千万円余ニ上リ昭和十一年産約四千二百万円、ヲ大衆トシ年産五百万円以上ノ魚類ハ、めんたい、こちさば、等七種ニ達ス(昭和十一年、ニ於ケル内地ノ漁獲高ハ約九億円ナリ)

漁業ノ種類ハ朝鮮在来ノモノ及内地式ノモノアリ頗ル多キモ漁船ハ概ネ小型ニシテ優良漁船ノ普及ハ未ダ充分ナラズ然レドモ近年ニ於ケル機械漁業時々機船中着網漁業及機船底曳網漁業ノ發達ハ注目ニ値ス

養殖業ハ年産一千八百五十万圓余ニシテ、ウナギ、等ハ其ノ主要ナルモノナルガ就中ノリハ年産一千七百万円ニ達シ内地ノ淺草海苔ノ原料ニ使用セラル、水産製造物ハ年産約一億七千万円ニシテ其ノ大半ハ素乾品、塩藏品、蒸乾品等ノ食料品トシテモ肥料、油脂類等

モ増加ノ傾向ニ在リ、昭和十一年、於ケル水産物ノ輸移出ノ状況ヲ見ルニ食用トシテ内地ニ移出セラルモノハ、めんたい、ウナギ、等ニシテ三千七百万円、滿洲支那ニ對スル輸出品ハ二千七百万円ニ及ビ又非食用品トシテハ肥料(鱈搾粕)ヲ主トシ内地移出額二千万円、輸出品額四百万円ニ達セリ

鱈漁業ノ近年ノ状況ヲ見ルニ上述ノ如ク本漁業ハ朝鮮水産業ノ大宗ニシテ全獲高ノ五〇%ヲ占メ價格ニシテ約五千万円、紙價格ノ三五%程度ニ達スルヲ例トセル然、昭和十七年以來漁獲回遊ノ不同ニ因リ未曾有ノ不漁ヲ現出シ漁獲高ハ僅カニ七万数千円、前年ノ獲高ノ一割余ニ陥ギ不漁ノ昭和十八年ニ到リテハ更に減少セリ、之が対策トシテ總督府ハ從來ノ擴張セル鱈巾着網漁業ノ經營縮小ノ方途ヲ講ジ從來ノ漁業數(ニニ四統)ノ内維持目標ヲ一〇、統ニ減シ之が經營方法ノ合理化ヲ図ルト共、殘余ノ船隻及資材ハ戰時緊急ノ用途ニ転用スル等ノ措置ヲ講ジツ、アリ

台湾

台湾ノ水産業ハ海洋漁業ヲ主トシ沿岸漁業ハ内地 朝鮮ニ比シ著シク遜色アリ 昭和十六年度於ケル水産総額ハ約五千五百万円ニシテ漁獲高ハ三千七百万円ニ區ギズ 其ノ主要ナルモノハ鮪、イサ、鱈、鯉等ナリ

台湾ハ其ノ地理的位置ニ鑑ミ南洋、南洋方面ノ本域漁場開闢ノ基地トシテ總督府当局ニ於テモ諸般ノ施策ヲ講ジツ、アリ最モ内地ニ於テ海洋漁業ノ統制實施セラルルニヤ台湾ニ於テモ島内各会社ヲ台同シ南日本漁業統制株式会社(資本金五千万円)ヲ設立セリ、之レガ振興ノ方途考究中ナリ

次ニ水産物需給ノ狀況ヲ見ルニ台湾ニ於テハ鮮魚類ハ概テ需給ノ均衡ヲ保ツ、アルモ(年間生産八万吨ニ對シ同程度ノ需要ナリ)塩乾魚類ハ熱帯地域ナル事情並ニ本島人ノ嗜好品ナル關係上需要頗ル多ク島内産ハ其ノ一部ヲ充タスニ過ギズ概テ内地ヨリ移入シ来レリ(

註 鱈、鯉 等ノ塩乾モノ年間三万吨乃至五万吨ヲ移入ス)然ルニ近時内地ニ於ケル需給並ニ輸送不円滑等ノ事情ニ因リ移入減少ノ傾向ヲ生ジ地方特ニ最近ニ於ケル特殊需要ノ増加アリ水産物ノ需給ハ頗ル窮乏ナリツ、アリ

(参考) 昭和十六年内外地ニ於ケル水産物需給狀況 (單位千貫)

生産量	内地	朝鮮	台湾	備考
移入量	五九、六〇〇	一五、一四〇	八、二七二	本表鮮魚以漢類全部并計支
輸入量	一、三五五	三〇	六三七	
移出量	一、二一六、七九五	三五、六六三	三五、四七四	
輸出量	二、一四〇	一、八一七	一、〇八六	
計	四、一四六	一四、三三二	一、四六三	
注別需要量	一、五三、七三三	三、四一三	三、九七五	

一 軍資

二 重要鉱物の生産

朝鮮 台湾 殊ニ朝鮮ハ重要鉱物ノ埋藏多ク豊富ニシテ戰時下帝國ノ鉱物  
増産ニ寄与スル所大ナルモノアリ

左ニ国外地ニ於ケル重要鉱物ノ生産量ノ全国生産量ニ対スル比率ヲ示  
ス (昭和十八年度計画)

品名	朝鮮 (%)	台湾 (%)
鉄 鉱 石	四四・四	〇
銅	四・五	五・五
鉛	三六・〇	〇
亜鉛	一三・九	〇
石 綿	六一・七	九・四

炭 石	九〇・〇	〇
雲 母	一〇〇	〇
鱗 状 黒 鉛	一〇〇	〇
工 状 黒 鉛	一〇〇	〇
タンガステン	八三・三	〇
モリブデン	六七・一	〇

石炭ハ朝鮮約七百萬噸 台湾約三百萬噸ノ生産額ヲ示シ朝鮮ノ生産ノ半  
額以上ハ無煙炭ナルガ。之ニ対シ需要ハ約九百萬噸ニ達スルヲ以テ朝鮮  
ハ無煙炭約一〇〇萬噸ヲ内地ニ移出シ(煙炭原料トナシ)北支 兩洲  
内地 荷太等ヨリ有煙炭(殊ニ製鉄原料炭)約三百萬噸ノ輸入ヲ要ス  
ル状況ニ在リ

台湾ハ生産額需要ニ超過シ支那南洋方面ハ約四十萬噸ノ輸出ヲ爲シツ  
ンアリ

金ハ従来朝鮮ノ最重要鉱産物ニシテ昭和十七年ノ生産額ハ内地約二十一  
噸ニ対シ朝鮮ニ二十四噸一億三千萬圓（台湾三噸）ニセリタルガ十八年  
カノ金銀業整備方針ニ依リ銅ヲ隨伴スル鉱山以外ハ廢止セラルル  
コトトナリ全鮮千二百余ノ金山中存續スルモノハ約四分一トナリ之カ  
資料分務ノ他産業ノ転換ヲ略覽スル見タリ

鉄鉱石ノ朝鮮ニ於ケル生産ハ現在既ニ年産約三百萬噸ニ達シ内地ノ天ヲ  
凌駕セルガ最近船舶復舊情ニ依リ支那及南方鉄鉱石ノ輸入減ニ対処スル爲  
大規模ノ緊急増産ヲ行フ方針ノ決定ヲ見昭和十九年ヲニ於テハ約四百五  
十萬噸ノ生産ヲ自途トシ輸送施設ノ整備粉砕燒結設備ノ増設ヲ行定施

25

中ニシテ本年カ才二四半期ノ生産ハ計画量ヲ突破スル好成績ヲ示シツツ  
アリ



二三 重点産業ト朝鮮、台湾

五重点産業中石炭ニ就テハ前述セリ。航空機ハ外地ニ於テ采ダ見ルベキ  
生産テテヲ以テ部置工場ハ相當數アリ。以下、鉄、鋼、輕金屬、船舶ニ付  
略述スベシ

1. 鉄、鋼

朝鮮ハ鉄、鋼石資源ニ恵マレ利原、載寧、价川等少規模トケラ優良ナル  
鉱山存スルヲ以テ正年間已ニ兼二浦（北鮮西岸）ニ三菱製鉄所ノ創  
設ヲ見タルガ昭和十三年以來生産力補充計画ノ一部トシテ茂山（會  
州）ノ埋藏量十億噸ニ上ルノ鉄、鋼石ヲ利用スル清津製鉄所ノ建設ヲ  
見、現在共ニ日本製鐵會社ニ屬セリ。兼二浦、清津共ニ製鉄能力年産  
約三十五萬噸、合計約七十萬噸ニシテ全國生産能力ノ約一割五分ヲ占

ム。兼二浦ハ他三年産約十三萬噸ノ製鋼設備ヲ有ス。十八年度実績額  
ハ兩省合シテ鉄、鋼四十八萬六千噸、鋼材十五萬二千噸ナルガ十九年度生  
産目標ハ鉄、鋼五十四萬噸、鋼材十八萬一千噸ナリ。

尚十七年末以來鉄、鋼ノ急速増産ヲ因ル厚小型熔鑄所ノ建設計画ヲ朝鮮  
北半支、台湾ノ各地已ニ於テ樹立セラレタルガ該計画ノ目標ハ

朝鮮	二〇萬噸	七五萬噸	四五〇千噸
北支	二〇萬噸	五一萬噸	
蒙疆	四〇萬噸	二萬噸	
	五〇萬噸	四萬噸	六一五千噸
	二五〇萬噸	三萬噸	

生産能力

中支	二〇萬噸	二〇萬噸	一、二〇千噸
台灣	二〇萬噸	五萬噸	四〇千噸
	三五萬噸	一萬噸	
計			一、二二五千噸

ニシテ朝鮮ハ全計画ノ約四割弱ヲ占ム  
 朝鮮ニ於テ建設計画中ニ丁九基ハ既ニ操業ヲ開始シ十八年度実績産額  
 ハ三萬一千噸程度ナルカ他本年内ニ續々竣工ノ見込アリ但シ當初  
 ハ主トシテ朝鮮産ノ無煙炭ヲ使用スル計画ナリシガ操業上ノ經驗ヨリ  
 見テ本國産炭ノコトトクスル必要アリ仍テコークス貯テ急設  
 スルト共ニ國內ニ之ガ原料炭ヲ缺クテ以テ滿洲ヨリ密山炭ノ輸入ヲ爲  
 スコトトナリタルカヘコトトクス三萬噸原料炭(五萬噸)右コークス貯テ  
 建設進延ニ伴ヒ未ダ予期ノ生産ヲ望ムルニ至ラズ

台灣ハ鉄鉱石、原料炭共ニ乏シク現在製鉄業ニ行テハ見止ベキモノナ  
 シ、唯地理上ノ優位ニ鑑ミ將來海南島鉄石ヲ利用スル製鉄工場ノ建設  
 ヲ計画申ナリ

前記小型熔鉱炉計画ニ於テ石炭ハ島内産、鉄石ハ海南島産ヲ使用スル  
 計画ニシテ既ニ三基ノ操業ヲ開始シ十八年度四千噸程度ノ生産ヲ見込

2. 軽金屬

A. アルミニウム

昭和十八年度生産額台灣ハ一萬四千五百餘噸ニシテ全國生産額ノ一  
 四%ニ達シ朝鮮ハ一萬二千五百餘噸ニシテ九%ヲ占ム  
 台灣ニハ高雄ニ日本アルミニウム會社工場アリ本邦ニ於テ本トキナ



イトヲ用ヒバイヤト法ニ依ル製造工場ノ騰矢ニシテ花蓮港ニモ電解  
工場ヲ有ス

朝鮮ノ製造會社ハ興南ノ日本窒素會社ト鎮南浦ノ理研金屬會社ト十  
八年春以來昭和電工會社ニ委託經營中及揚市ノ三井輕金屬會社ノ  
三者ナルガ前二者ハ何レモ原料ニ塔上頁名ヲ用フル關係上未カ作業能  
率ト分テラサルモ仍十一年度ノ生産額ハ計画ノ八割ト分ニ達シタリ  
三井輕金屬ハ昨年六月ヨリ豫業ヲ開始シ不敗敢同社ニ池工場ノアル  
シタニ依リ電解作業ヲ營ミ居リ既ニ十八年度ノ生産額ハ計画ノ六六%  
ニ及ブ成績ヲ示セリ

野金屬工業ハ多量ノ電氣ヲ消費スル關係上内地ニ於テハ今後擴張ノ  
余地ニシク電力資源豊富ナル朝鮮北郊地方ノ立地上ノ優位ヲ認メラレ

十八年度ヨリ既設復舊會社タル昭和電氣及任友野金屬兩社ノ各五萬  
瓩ノ生産ヲ目標トスル大工場ノ朝鮮進出計畫決定シ前者ハ鎮南浦ニ  
後者ハ元山ニ夫々工場建設ニ着手シタルカ本年十九年後半ニハ既ニ一  
部完成ヲ期待セラレアリ之ガ完成ノ曉ニ於テハ朝鮮ハ帝國ノアルシ  
ニウム生産ノ半ハヲ占ムル大生産地タルニ至ルベシ

B. マグネシウム

昭和十八年度生産額ハ台灣四百七瓩ニシテ全國生産額ノ一〇% 朝  
鮮七百五十瓩ニシテ一八%ヲ占ム、工場能力ヨリスレバ兩者合シテ  
全國生産ノ四六%一三千五百瓩ニ達スベキ所、技術ノ不熟、原料  
資材ノ關係等ニ依リ能率ヲ發揮シ得ザリシモノナリ、工場トシテ台  
灣ニハ旭電化會社高雄工場アリ朝鮮ニハ日本マグネ(興南)東洋金



属(新義州)、三菱マグネ(鎮南浦)、理研金屬(鎮南浦)ノ四会社  
アリ、原料ニ日本マガネハマグネサイト其ノ他ハ関東州産苦汁ヲ用  
ヒ電カニ豊富ナルヲ以テ将来發展ノ余地大ナリ、尚西鮮岐陽ニ朝日  
輕金屬会社五千挺工場ノ第一期工事ハ進行中ナリ

3 船舶

鋼鐵船ニ関シテハ朝鮮ニ朝鮮重工業会社(釜山)アリ、台湾ニ台湾  
ドック(基隆)台湾鐵工所(高雄)ノ兩者アルモ何レモ規模少ニシ  
テ修理ヲ主トシ新造船トシテハ十八年度朝鮮ニ於テ二〇〇隻一  
隻・千型(四九〇噸)ニ隻ノ竣工ヲ見タル程度ナリ  
木造船ハ朝鮮、台湾共内地ノ建造計画ニ呼應シ昭和十七年度ヨリ計  
画造船ノ實施セルガ十八年度ノ建造目標ハ朝鮮三萬隻、台湾千隻ニ

シテ何レモ六〇%程度ノ復舊ヲ不セリ

内地トモ造船用木材中長材ニ乏シク大量ノ造船ヲ期待シ得ズ



朝鮮

朝鮮ハ豊富ナル水力電気資源ニ恵マレタルモ之が開發ハ電力ヲ大量ニ  
 移用スベキ工業ノ存在ヲ前提トスル爲久シク興ラザリシが昭和五六  
 年ハ候野口遵氏ノ慧眼ニ依リ鴨綠江ノ支流タル赴戦江 長津江上流ニ大  
 堰堤ヲ築造シ兩川ノ水ヲ日本海ニ注ギテ得ラルル豊富低廉ハ兩者合シ  
 テ電力五十萬キロ 赴戦江電力ハ一キロ時七厘五毛トシテ電力ヲ以テ  
 硫黄ノ製造開始セラレテ以來朝鮮ノ電力資源ハ俄然一変ノ觀聽ヲ惹キ  
 更ニ昭和十二年以來滿洲國政府 朝鮮總督府間ノ協定ニ基キ鴨綠江水  
 カ於電氣社ヲ創設シ鴨綠江ノ發電工場 發電所七箇所總出力二百萬キ  
 ロトテ開始ナルコトトナリ其ノ第一着トシテ新義州上流六十斤ノ水

量ニ發電所建設ニ着手 昭和十六年發電開始シ現在既ニ七臺七十萬  
 キロノ發電機中五臺ノ運轉ヲ開始シ滿洲朝鮮折半ニ送電中ナリ 同社  
 ハ引續キ丹州(二十五キロ) 雲峯(五十萬キロ)ノ兩發電所建設ニ着  
 手シツツアリ

右ノ外建設工事中ノモノトシテハ東城系ノ冷水電アリ 朝鮮殖銀系ノ  
 漢江水カアリ日室系ノ朝鮮水カアリ其ノ他數多ク發電事業会社アリタ  
 リ  
 然ル所支那事變以來米物價銀ノ昂騰ニ依リ低廉ヲ祈レル朝鮮ノ電力開  
 發費モ漸次昂騰ノ勢ヲ生シ推考ノ發電事業会社ヲシテ白々ニ開發セシ  
 ムルトキハ技術 資本 労力ノ浪費ヲ生シ工事ノ延延 發電原価ノ昂  
 騰ヲ生ズル慮アルニ至レルヲ以テ内地ノ飛送電事業統合ニ倣ヒ全鮮ヲ

打ワテ一丸トスル新会社(朝鮮電業会社)ヲ設立シ(但シ鴨綠江水系ニ付テハ滿洲國トノ特殊關係ニ鑑ミ既存ノ朝鮮鴨綠江水電ヲ其ノ儘特殊会社ニ改組ス)電力ノ開發並ニ之ガ管理統制ヲ容易ナラシムル爲昭和十八年春閣議ノ決定ヲ經テ別令「朝鮮電力管理令」ノ公布ヲ見新会社ハ同年ノ八月二日設立セラレ(現在資本金三億四千七百七十三萬圓社債借入金二億二千二百三十八萬圓)全鮮ノ発電施設ノ買収ヲ免ラセリ尙新会社ハ発電及送電ノ一元經營ヲ目的トスルモノナルガ配電事業(現在四会社アリ)ノ統合ニ付テモ目下考究中ナリ

新会社ハ久保田社長以下赴朝鮮、長津江及鴨綠江電源ノ開發ニ成功セル日室系ノ技術陣ヲ中核トシテ開發ニ當ル事トナリ又總督府ハ電力ノ政策的料金割當ヲ定メ要スレバ之ニ財政的援助ヲ与ヘ低廉豐富ナル電力ノ供給ヲ確保スルヲ定ナルヲ以テ今特許會社製造工業、電気製鋼事業、肥料工業等ノ立地ヲ北鮮地方ニ求ムルモノ續出ノ形勢ニアリ

台灣

台灣主水力電気資源豐富ニシテ全部ノ水系ヲ開發スレバ約二百萬キロノ電源ヲ得ベシト稱セラルル所従来日月潭ヲ利用スル発電工事(ハ出力約十五萬キロ)以外大ナル發展ヲ見ザリシガ支那事變以來島内工業ノ進展ニ伴ヒ電力ノ需要旺盛トナリ水力発電所ノ建設各所ニ興レリ就中台中州北部ヲ流ルル大甲溪水系ハ約五十萬キロノ電源ヲ包藏スルモノナルガ之ガ開發ノ厚ニハ上流遠見ニ大堰提築造ノ要アリ相當ノ新工事ニシテ巨額ノ資金ヲ要スルモノトセラレタリ然ル所昭和十六年十月間借セラレタル「台灣經濟審議會」ハ本事業ノ遂行ヲ以テ台灣工

業化ノ飛輪トスル旨答申セルヲ以テ總督府ハ政府ノ事業トシテ本邦  
ノ策造ヲ行ヒ以テ修康ナル電力ノ供給ヲ確保スル方針ヲ定メ昭和十七  
年度以降之ニ要スル經費ヲ予算ニ計上中ナリ、但シ本邦ノ建設ニ約  
七年ヲ要スルト算料通達ノ旨係上目下ノ所進捗適々タル状況ニ在リ  
台湾ノ電氣事業ハ現在台湾電力会社及東台湾電力会社ノ兩会社ニ統合  
セラレ總督府監督下ニ屬希ニ運営セラレツアルガ今秋迄ニハ兩社ノ  
統合ヲ見ル予定ナリ

昭和十七年末ニ於ケル内地、朝鮮及台湾ノ電氣事業ノ現況ヲ比較スレハ左  
如シ

水力発電設備 火力発電設備 合計

	千キロワット	千キロワット	千キロワット
内地	五五二五	三〇四三	八五六八
朝鮮	一一一七	一四八	一二六六
台湾	二五二	一五四	三〇六

内地ノ水力発電ハ冬期ニ水期ニ具ニ此等施設ナルヲ備ルカ発電ヲ申スルニ  
反シ朝鮮、台湾ハ大部分ニ堰堤式発電ニ依ルモノナリ、又ニ此等備ルカ発電  
申スル事少シ

朝鮮

朝鮮ニ於ケル鉄道ハ明治三十二年京城仁川間ニ敷設セラレテラフ嚆矢トセルガ日露戦争ニ際シ滿洲へ通スル幹線ノ急速建設ヲ実施シ京釜線ハ明治三十八年京義線ハ同三十九年全通セリ

明治四十三年總督府設置ト共ニ鉄道局ヲ設ケラレ爾來新線ノ建設並舊線ノ改良着々行ハレタルガ財政ノ都合等ニ依リ重要ナル路線ニ付テモ私設鉄道ノ建設ヲ認メ朝鮮私設鉄道補助法ハ大正十年法律第三十四号ニ依リ補助金ノ交付ヲ行ヒ果シテ結果前大戦当時ノ好況時代ニ於テ多數会社ノ設立ヲ見越道ノ建設ハ大ニ促進セラレタリ

其後重要幹線ニ就テハ漸次政府ニ於テ買収ヲ實施セル結果昭和十八年

未現在ノ營業路線延長ハ国有鉄道四、七四八將、私設鉄道一、六二七將合計六、三七六將トナレリ、之ヲ内地、北海道、台湾、滿洲國ト比較スレバ左ノ如シ

	国有	私設	計
内地(除北海道)	一、五〇〇	八、三〇二	九、八〇二
朝鮮	四、七四八	一、六二七	六、三七六
台湾	九一〇	五二二	一、四三二
北海道	三、五七八	五九三	四、一七一
滿洲國	九、八五一	一、二〇〇	一一、〇五五

軌道ハ私設鉄道ノ一部ヲ除キ一、四三五米ノ標準軌道ヲ採用セリ  
尚本年及初頭私設鉄道中四一三・四將ノ買収ヲ實施セリ



滿洲國建國以來朝鮮鐵道ハ大陸ヘノ幹線トシテ改良ノ必要ヲ痛感セラレ累年巨額ノ經費ヲ以テ実施セラレツアリハ昭和十九年度予算建設費五十三百万円 改良費一億四千三百余万円  
 現下大陸物資ノ轉輸輸送量増大ノ事態ニ對シ改良工事 幹線タル新義州釜山間ノ複線工事ノ完成ニ重キヲ指向シラレ新設線ハ平壤上ノ要路ニ基テ若干ノ短距離線ヲ生産拡充上特ニ必要アルモノニ制限セラレツアリ  
 幹線タル京釜 京義線ノ改良工事ハ八分完成シ現在ノ残存区間ハ三浪津ノ大田間 平壤ノ新義州間ノ一部ニ六四 四料(全長九四七・ニ料六八二・八料ハ複線化完成ス)ニシテ大正十九年度完成シ滿鐵安奉線ノ複線完成ト計畫セシムル予定ナリ

台湾

國有鐵道總延長ハ昭和十八年度末ニ於テ九一〇七・三キロ内幹線タル基隆十高橋間縱貫線(四〇五料)ハ明治四十一年全通セリ  
 東部花蓮港台東間(一七三料)ノ台東線ハ大正一五年完成セリ  
 在ノ外台中鐵 宜蘭線 潮州線 淡水線等ノ諸線アリ  
 大東亜戰爭以來台湾ニ於テ毛貨客ノ暢銷著シテ縱貫線ノ複線化ヲ要望セラレツツアルモ大東鐵道其他ノ急電アル為メ其實現ニ至ラズ  
 尚台湾ニ於テハ製糖会社ガ原料運搬用ニ敷設セル私設輕便鐵道(延長二・七〇七料)アリ其一部ハ旅客ノ輸送ヲ兼營シツツアリ



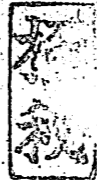
二六 大陸転移物資輸送状況

内地が滿洲及支那二期待スル穀類、鉄鋼、石炭、大豆粕、油料糧食、非鉄金屬等諸重要物資ノ海上ヨリスル輸送ハ最近ニ於テハ船隻不足、航行危険ニ依リ著シク困難ヲ加ヘタル爲、之等物資ハ朝鮮ヲ經由スル陸運ニ転移セラレ共ノ際諸ハ逐年増大ノ趨勢ニ在リ、当初十七年十二月ノ陸運転移第一次計画ハ鉄鋼、塩及大豆ヲ合セ八萬五千噸、十八年一月ヨリ三月ニ至ル第二次計画ハ合計四十一萬五千噸（月間約十四萬噸）ニシテ通シテ八十五%ノ完績ヲ収メタルガ十八年度ニ於テハ如上物資ノ外大豆、粕、鉛、銅、管、石等ヲ加ヘ二百二十萬噸（月間約十七萬噸）ノ計画トナリ、九〇%ノ完績ヲ収メタリ、十九年度ニ於テハ此等諸ハ一躍、六百五十萬噸ニ達シタル（月間五十萬噸）ノ輸送可能量ハ五百萬噸前後ト予想セラル

斯カレ電請ニ対応シ朝鮮交通局ハ一面緊急策トシテ車輛、荷役機材等ノ病車ヨリノ借入、旅客列車ノ修正等ヲ行フト共ニ急遽東京、京義幹線ノ複線化完遂、操車場ノ改良強化、南鮮諸港修築施設ノ拡張、車輛ノ緊急増備等ノ措置ヲ請フソコリ







三、朝鮮、台湾、内地トノ經濟關係

1. 移出入關係

昭和十八年ニ於ケル朝鮮、台湾、内地トノ交易關係ヲ概觀スレバ左ノ如シ(大陸戰線輸送貨物等通過貨物ヲ含マズ)

対内地移出 移入 移出△人超過

朝鮮 七二二,三〇〇,〇〇〇 二一三,五〇〇,〇〇〇 八,四一三,〇〇〇

台湾 二九二,〇〇〇,〇〇〇 二九一,〇〇〇,〇〇〇 七

移出品 (金額ノ順序ニ依ル)

朝鮮 鉄、合金銀粗銅、乾海苔、鮮塩乾魚、肥料

台湾 砂糖、米、アルミ、鉄、芭蕉實、酒精、鳳梨缶詰

移入品 (金額ノ順序ニ依ル)

朝鮮 機械類、絹人絹及スフ織物、鉄、石灰、紙、紙

台湾 綿縮及スフ織物、肥料、鉄、ガンニ一袋、煙草、小麦粉

朝鮮ノ対内地交易關係ハ昭和十二年迄ハ年額一億四千萬程ノ入超ニ過ギ

ガリ、ガ支那事変以來移出額ノ増加盛々タルニ於テ移入激増シ十七年ニ於テハ六億ヲ超ニル入超ヲ示シタリ、之ガ原因トシテハ、(一)各種工業建設資材ノ移入激増、(二)移入織物品其他ノ價格騰貴、(三)米移出ノ減少等ガ主ナルモノト考ヘラル。昭和十八年ニ於テハ移出入共ニ減少シ、四億四、八〇〇、〇〇〇ヲ特ニ前年ノ大旱魃ノ影響ヲ受ケ移出ノ大宗タル米ノ移出額ト皆無トナルルハ注意ヲ要ス。台湾ノ内地ニ對シ若干出超ヲ示セルハ朝鮮ト異リ未ダ工業ノ建設ニ先ルベキモノナク建設資材ノ移入額動キニ困ルモノト考ヘラル。尚十人年ニ於テ移出額共減少ヲ示タルハ韓越關係ニ基因シ特ニ砂糖移出ノ激減ニ因ルモノナリ。尚昭和十六年中ニ於ケル朝鮮ノ対内地貿易外收支ハ際取勘定二十億三、四二百万円支持勘定十六億六千万円差引取勘定超過三億六千二百百万円ナリ。昭和十四年中ニ於ケル台湾ノ対内地貿易外收支ハ取勘定五億一千百

万圓支払勘定六億五千二百萬圓差引支払超過一億四千四百萬圓ナリ

(参考)

対内地移出、額買年比較

(百万円)

年	朝鮮		台湾	
	移出	移入	移出	移入
昭和十五年	七八八	一三三五	四五九	四二五
十六年	七八八	一三六〇	三七九	三七一
十七年	七五二	一三七四	四一九	三三七
十八年	七二二	一三三五	二九二	二九一

六、朝鮮及台湾ニ於ケル重要諸会社

朝鮮及台湾ニ於ケル各種産業ニハ内地ノ会社ガ支店出張所ヲ設ケテ經營スルモノ及現地ニ本社ヲ有スルモノノ兩者アリ。現地ニ本社ヲ有スルモノモ、莫クハ大部分ハ内地資本ノ進出ニ依ルモノニシテ朝鮮及台湾ノ土着資本ニ依ル会社ハ極メテ小規模ナルモノニ限ラル。尚、最近統制機構ノ整備ニ伴ヒ内地ニ做ヒ管團、金庫、特殊会社等ノ新設セラレ、モノ相当多数ニ上レリ。

兩外地ニ於ケル主要会社ヲ事業別ニ示セバ左ノ如シ(括弧内ハ公稱資本金、○印ハ特殊会社、×印ハ内地ニ本社ヲ有スルモノヲ示ス)

(一) 朝鮮

金融業 ○朝鮮銀行(四〇〇〇〇) ○朝鮮殖産銀行(六〇〇〇〇)

○×東洋拓殖(一〇〇〇〇〇)

交通業 朝鮮鐵道(五〇〇〇〇) 西鮮中央鐵道(一五〇〇〇〇)

北鮮拓殖会社(二〇〇〇〇) 朝鮮郵船(一五〇〇〇〇)

電氣事業

- 朝鮮電業 (三四二七三) 京城電氣 (三三八〇〇)
- 南鮮合同電氣 (三五〇〇〇) 南鮮合同電氣 (三〇〇〇〇)
- 朝鮮鴨綠江汽力 (二〇〇〇〇) 北鮮合同電氣 (二二五〇〇)
- 朝鮮証券取引所 (二〇〇〇〇) ○朝鮮重要物資管理団 (二〇〇〇〇)
- 朝鮮交易所 (八〇〇〇) ○朝鮮食糧管理団 (三〇〇〇〇)

商業

鉄鋼業

- 朝鮮無煙炭 (五〇〇〇〇) 朝鮮有煙炭 (一九一五〇)
- 朝鮮石灰 (一〇〇〇〇) ○朝鮮硝子 (一五〇〇〇)

鉍山業

- X日本鉍業 (四七二二〇) X三貴鉍業 (二〇五七〇)
- 小林鉍業 (五〇〇〇〇) X日鉄鉍業 (一五〇〇〇)
- 朝鮮鉍業振興 (五〇〇〇〇) 茂山鉄鉍商會 (五〇〇〇〇)
- 日産鉍業商會 (一六〇〇〇) 東拓鉍業 (七〇〇〇)

金屬工業

- X日本製鉄 (八〇〇〇〇〇) X三貴製鋼 (二〇〇〇〇〇)
- 朝鮮製鉄 (二五〇〇〇) 日本高周波 (五〇〇〇〇)
- X鐘淵實業 (七〇〇〇〇)

X日本窒素肥料 (四五〇〇〇〇)

朝鮮電工 (二〇〇〇〇〇) 朝鮮住友輕金屬 (八〇〇〇〇)

朝日輕金屬 (一四〇〇〇〇) X三井輕金屬 (五〇〇〇〇)

日本メカニカル金屬 (四二〇〇) 三貴メカニカル金屬 (五〇〇〇)

機械工業

朝鮮重工業 (一五〇〇〇) 朝鮮機械 (一八〇〇〇)

釜山工作 (一〇〇〇〇)

化学工業

X東京技術電氣 (三六〇〇〇) X日産製作所 (三五八〇〇)

X日本窒素 (四五〇〇〇〇) X日産化学 (七八五〇〇)

朝鮮油 脂 (二〇〇〇〇) 北鮮製紙 (二〇〇〇〇)

朝鮮セメント (一四〇〇〇) 朝鮮人造石油 (九〇〇〇)

纖維工業

朝鮮火柴 (二〇〇〇〇) 朝鮮小野田セメント (七五〇〇)

X鐘淵紡績 (一三三〇〇〇) X大日本紡績 (四七〇〇〇)

朝鮮紡織 (一〇〇〇〇〇) 三城紡織 (一〇〇〇〇)

X化産製糸 (六六〇〇〇) X那良工業 (二〇〇〇〇)



(一) 台湾

其他

朝鮮石油 (三〇,〇〇〇) 日産燃料工業 (三〇,〇〇〇)

朝鮮無水酒精 (五,〇〇〇) X 大日本塩業 (一六,〇〇〇)

○ 朝鮮林業南袋 (二〇,〇〇〇) ○ 朝鮮木材 (五,〇〇〇)

○ 朝鮮茶業統制 (五,〇〇〇)

金融業 ○ 台湾銀行 (三〇,〇〇〇) ○ 台湾産業金庫 (三,〇〇〇)

交通業 南日本汽船 (一五,〇〇〇)

電氣事業 ○ 台湾電力 (五四,八〇〇) 東台湾電力 (二,〇〇〇)

商業 ○ 台湾重要物資管團 (四,〇〇〇)

紙業 X 日本紙業 (四一,八二五) 台陽紙業 (一〇,〇〇〇)

○ 台湾石炭統制 (一〇,〇〇〇)

X 帝國石油 (二六,〇〇〇) X 日本石油 (二〇,〇〇〇)

金屬工業 日本( ) (六,〇〇〇) X 旭電化 (一〇,〇〇〇)

製糖業 東邦金屬 (一〇,〇〇〇) 台湾重工業 (七,五〇〇)

高雄製鉄 (五,〇〇〇) 台湾紙業 (五,〇〇〇)

製糖業 台湾製糖 (六四,二〇〇) 明治製糖 (五八,〇〇〇)

X 日糖工業 (七六,七〇〇) 塩水産製糖 (六,〇〇〇)

其他 ○ 台湾拓殖 (六,〇〇〇) ○ 台湾倉庫管團 (八,〇〇〇)

○ 南日本炭業統制 (五,〇〇〇)



二九 内地来住朝鮮人及台湾人  
（一）朝鮮人

内地来住朝鮮人の数ハ大正年代ニ於テハ微々タルモノニシテ十四年末  
僅ニ十三万人ヲ数ヘタルニ過ギズ、然ルニ昭和六七年頃朝鮮農村窮  
迫ヲ機トシテ俄然激増シ昭和九年ニハ五十万人ヲ超テ爾来内鮮富商者尙  
ノ協議ニ依リ勞務者ノ自由渡航抑制ノ措置講セラレタルニ拘ラズ増勢  
止マズ殊ニ昭和十四年内地勞務情勢ノ変化ニ依リ在来ノ勞務者渡航抑  
制方策ヲ緩和シ計畫的ナル移入ヲ行フニ至リ一ケ年ノ増加數ハ二十万  
人ヲ超テ昭和十八年末ニ於テハ約百八十四万人ニ達セリ、

コレガ在任地別ヲ見ルニ大阪府最モ大ニシテ約四十万人（全人口ノ一

割弱）ニ達シ福岡（十七万人）兵庫山口愛知東京（十二万人）北海道  
京都等諸府縣之ニ次グ

右ノ中有業者ハ約九十三万人ニシテ六十万人ハ婦女子及幼児二十万人  
ハ學童ト推定セラレ

有業者ノ大部分ハ勞務者ニシテ有識的職業ニ従事スル者ハ一人ニ滿  
タズ昨十八年末ノ調査ニ依レバ勞務者數ハ炭坑其他鑛山勞務者約十七  
万人土工其他土建關係約三十四万人商業約三万五千農林業約三万人工  
場勞働者約二十万人仲仕其他荷役約三万人梓人自動車運轉手等交通關係  
約二万人等ニシテ約九十万人ニ達ス、

コレヲ昭和十五年末ト比較スルニ左ノ如ク勞務者人口ノ割合ノ増加者

シク現在ニ於テハ生産年齢ニ至ル者ノ大部分ハ既ニ重要産業部門ニ就  
業シ遊休人口乃至商業人口ハ極メテ少数トナレル状況ヲ看取シ得ヘシ

	十五年末	十八年末
勞務者(鑛工土建業)	五〇、二千人	九〇、三千人
商業者	六九	三五
有識職業者	四	八
無職者(女子及幼児等)	四二五	六〇六
學生及生徒	二一	二五
國民學校児童	一三〇	二〇六
其他	三九	四九
計	一一九〇	一八三三

右ニ示ス如クナルヲ以テ現在内地ニ在住スル朝鮮人ノ職種轉換ニ依リ  
今後重要産業部門ニ動員シ得ル員數ハ極メテ少数ナルベシ但シ右勞務  
者中ノ大部分ヲ占ムル土建荷役等從事者ガ所謂自由勞働者トシテ賃銀  
職域等勞務統制ノ外ニ在ル事實ハ考慮ヲ要スル莫ナルベシ

現ニ内地ニ在住スル朝鮮人ノ大部分ハ今後引續キ内地ニ定着シ内地人  
ト為ルベキ本質ヲ有スル者ナリシカモ現狀ニ於テハ言語服裝住居風  
習ノ各部面ニ互リ内地人ト軒輊ナキ狀況ニ達セルモハハ極メテ一部ニ  
限ラレ内地人トノ融合ニ支障ヲ生ズルコト尠カラズ

財團法人華央協和會ハ是等朝鮮人ヲ指導シ内地人トノ同化融合ヲ促進  
スル目的ヲ以テ昭和十五年設立セラレタル機關ニシテ厚生省(健康局)

ノ主管ニ屬ス

全國各都道府縣ニ夫々都道府縣協和會アリ會長ハ知事副會長ハ内政警  
察兩部長常務理事ハ厚生特曹而課長ニ當ル其ノ下部機構トシテ各警  
察署單位ノ支會ヲ設ケ(支會長ハ警署署長)支會ニ專任指導員(内地  
人ヲ主トス有力朝鮮人ヲ置ク場合モアリ)ヲ置ク支會ノ下ニ更ニ地  
域分會(巡査派出所單位)或ハ職域分會(工場事業場)ヲ置ク場合多  
シ分會ニハ指導員(概不朝鮮人)ヲ置キ約十世帯ヲ一單位トシテ輔導  
査察ヲ行ヒツ、アリ

現在協和會ノ実施シツ、アル事業ハ國語教育生活訓練住居及衣服ノ改  
善職業輔導児童幼児ノ教育等々多岐ニ亘レリ  
尚學生ノ指導機關トシテハ財團法人朝鮮學生會アリ文部省生内務三

大臣の監督下に置かれ内地遊學生(専門學校以上)ノ進學保証在學中ノ指導及就職ノ斡旋ヲ行ヒツ、アリ、本年度内地在任者ノ子<sup>日本</sup>多ク雖モ本會ノ推薦アルニ非カレバ大學専門學校へノ入學ヲ許可セザル方針ヲ執リツ、アリ、

(一) 台湾人

内地來住台湾人ノ數ハ朝鮮人ニ比スレバ格段ニ少數ニシテ昭和十八年六月末ノ調査ニ依レバ合計ニ才三千余人ニ過ギズ(内男一万余人、女四千六百余人ナリ)コレガ在任社縣ハ東京ノ一才一千三百余人ヲ最多トシ神奈川(三千三百余人)大阪(三千百余人)兵庫(二千余人)沖繩(千百余人)コレニ次グ

在住者ノ職業ハ工業勞務者(六千四百余人)ヲ主トシ學生生徒七千五百余人、國民學校児童九百余人アリ有識的職業ニ従事スル者ハ千余人ニ過ギズ